



8Kテレビの映像を撮影するカメラのセンサー
(右) 浜松市中区のフルクマンテクノロジ

8Kテレビ実用化へ前進

①8Kテレビとは、どんなテレビでしょうか。

世界初カメラセンサー

静岡大電子工学研究所発の光産業ベンチャー企業「フルクマンテクノロジ」(浜松市中区)が3日、静大、NHKと共同開発した8Kテレビ用カメラのイメージセンサー「BT3300N」のサンプル出荷を開始したと発表した。今夏にも製品化と量産に乗り出す計画で、8K放送の実用化へ大きな一歩となりそうだ。

現行ハイビジョンの16倍の解像度(画素数)、4倍の撮像速度(コマ数)の国際標準規格を満たす8Kセンサーは世界初。光(被写体)を電気信号に変えて取り込むイメージセンサー、A/D(アナログ・デジタル)変換など、静大電子

②8Kテレビは、いつごろまでに実用化を目指していますか。

静大発ベンチャー開発、サンプル出荷

工学研究所の川人祥二教授が開発した最先端技術を駆使し、4年がかりで完成させた。

8Kテレビは2020年に開催される東京五輪を見据え、18年の実用放送を目指している。超高臨場感の放送が実現する一方、実用化には大容量のデータを記録する「撮像」、そのデータをリアルタイムで配信する「伝送」、高画質の映像をモニター上に流す「表示」の三つの技術的なハードルがある。

③8Kテレビの魅力はどんなところでしょうか。

Q 8Kテレビ、Kは「千」を意味し、現行フルハイビジョン(2K)は水平解像度(画面の横に並ぶ画素数)が約2千、4Kは約4千、8Kは約8千であることを表す。解像度が高くなればなるほど、大画面でもきめ細やかな画質になる。8Kテレビは1秒間に映し出すコマ数も2Kの4倍の120コマになり、素早い動きをなめらかに映し出す。総務省は2016年に試験放送、18年に実用放送を計画。20年までに一般家庭への普及を目指す。

今回のセンサー開発により撮像の課題克服へ大きく前進することになり、既にこのセンサーを使った8K専用カメラも完成している。

BT3300Nは、16、18日に米国サンフランシスコで開催される光産業の展示会で紹介される。同社は「監視カメラや内視鏡などへの活用も見据えている。多くの分野で用途の幅を広げたい」とし、量産後は年間5億円の売り上げを目指す。

2016年2月4日 朝刊

年 組 名前

(小学校高学年・中学校・高校 総合)